

第4回滋賀県総合教育会議の結果について

会議次第

平成28年 9 月 7 日（水）

15:00～17:00

県庁東館 7 階大会議室

学校と地域との連携・協働

～支え合いの仕組みづくりについて～

【ゲスト】

・近江八幡市立八幡小学校支援地域本部の取組

○近江八幡市立八幡小学校長 三上 昌男 氏

○同 学校支援地域本部地域コーディネーター

森 シゲミ 氏

・草津市地域協働校の取組

○草津市教育委員会教育長 川那邊 正 氏

○草津市立草津第二小学校地域コーディネーター

平井 規恵 氏

平成28年度第4回の滋賀県総合教育会議では「学校と地域との連携・協働」をテーマに、県内で活発な取組をされている実践事例を発表いただくとともに、社会全体で子どもを育てるという視点から、子どもの学びへの成果や地域ボランティアの発掘、コーディネーターの関わりなどについて意見交換を行いました。

主な意見等

- ボランティアとして支援をしてくださる方に学校に入っていただくと、子どもたちの学びがより充実する。さらに、子どもたちが上達していく姿を見て、ボランティアの方も非常に喜んでくださる。そういう効果的なマッチングが地域コーディネーターに入っていただくことでできるようになった。
- 地域コーディネーターを配置したことで、地域の体験活動の事前打合せ、交渉などをしていただくことになり、教員の負担は非常に少なくなったと聞いている。
- 子どもたちにこういうことを教えたい、伝えたいという学校の想いを地域の方に発信して、希望に合う方を呼び込むことが地域コーディネーターとしての役割の一つである。
- 近江八幡市では、地域コーディネーターが各校園に1人ずつ配置されているため、非常にきめ細かくつなぎの役割を果たしていただいている。
- 草津市では平成10年から地域協働校を実施しており、市全体として定着していることから、学校と地域の関係もよく、学校側の想いと、地域の方が学校に教えたいという想いをつないでいける土壌が草津市の中にはある。これが市としての強みである。
- 地域コーディネーター、ボランティア共に、代わりの人を見つけることが課題となっており、学校と地域が一緒になって取り組んでいく必要がある。
- 「地域の中の学校」と「学校を核とした地域」をどういうふうに進めていくのかが重要。そのためには組織や体制をしっかりと作っていかないといけない。その結果、地域の方が学校を応援してくれて、応援していただいていることがさらに地域を元気にするという形になっていけばいい。
- 我々が子どもの頃は家庭と地域で育てられてきたという感じがするが、今回の学校と地域との連携・協働の取組を伺って、今の時代に大変重要なことをしていただいていると感じた。
- 滋賀県の子どもたちは、地域との関わりの中で学び育っている。こうした滋賀の強みを大事にしたい。今日いただいた意見を参考にしながら、地域と一緒に取り組む学校や学びづくりを進めていきたい。
- 学校と地域が連携・協働する取組を全県に広げていけたらいいし、そのために必要な体制や組織の整備、また必要な予算について教育委員会と連携し、また県だけでなく市町等とも連携して取り組んでいきたい。

学校支援地域本部……地域住民等がボランティアなどを通じて組織的に学校の教育活動を支援するもの。地域コーディネーターを配置し、学校のニーズの把握や地域のボランティアの発掘、広報活動等を積極的に行うことで、地域住民との相互理解を深め、地域とともにある学校づくりを推進する。

